

ふるさと 資料紹介

= 66 =

史料と地名からみた 地区の歴史 21

加茂野 (四)

鷹之巣村の名前は、暦応四年（一二三四年）、室町幕府が佐分加賀入道に、横領した土地を返すように命じた書類に出てきます（当時は「鷹栖」と書きましました）。

江戸時代は尾張藩領で、石高は三九三石でした。寛政年間の戸数は五九戸、人口は二三三人でした。村には竹がよく茂っており、当時「竹役」といって竹を税として納めることもありました。明治五年には、戸数四九戸、人口一九六人でした。

稲辺は江戸時代には「伊辺村」といい、明治になってから「稲辺村」と表記されるようになり

ました。初めは旗本領でしたが、元和五年に尾張藩領になりました。寛政年間には戸数二五戸、人口一五三人でした。

明治三四年から大正時代にかけて、稲葉池を利用して鯉の飼育が盛んに行われました。

今回は、次の方から貴重な資料を寄贈いただきました。ありがとうございました。

（平成八年十一月分）

○消防用拍子木など 二点

（座馬公夫さん／野笹町）

○しょうゆだるなど 二十一点

（松井鉦司さん／御門町）



▲しょうゆだる

計画中の博物館建設のため、現在いろいろな資料を収集しています。文化課（文化会館内／内四〇八）まで情報をお寄せください。